



図2 同、松本での陸地測量部現地作業の視察

右端が渡邊氏で、その左が有未第二部長。最前部に大前陸地測量部長。



図1 昭和19年夏、松本に疎開した陸地測量部への視察に際して神社参詣

神官の右後ろが渡邊正氏。神官の右に、有未参謀本部第二部長と大前陸地測量部長(ともに中将)。



図4 渡邊正氏ご近影

平成15年10月23日、ご自宅にて。



図3 昭和20年9月の、GHQ工兵部ダンバー大佐一行による松本視察旅行の帰途、辻堂海岸にて

前列右が渡邊氏。その左にスチュワート中佐とダンバー大佐、クード少佐。

考	備	要						要
		八	七	六	五	四	三	
一、本會の宗旨 二、本會の組織 三、本會の活動 四、本會の将来	一、本會の宗旨 二、本會の組織 三、本會の活動 四、本會の将来	八、資料準備	七、招徠決定	六、登費決定	五、立地定むる所	四、題紙決定	三、会費決定	一、日次 二、場所 三、出席者 四、出席料 五、出席者 六、出席料 七、出席者 八、出席料
		一、資料準備 二、招徠決定 三、登費決定 四、立地定むる所 五、題紙決定 六、会費決定 七、出席者 八、出席料						

図 5

昭和 20 年 4 月 30 日に開催された「第一次兵要地理研究会合行事予定表」。
 (資料 1 - 2、68 頁)

左 記

兵要地理調査研究會合行事
 東京都千代田区
 参謀本部第二部

第一次参集日次
 昭和二十年四月二十四(日) 九時〇分

(参考) 第一次参集者名簿(五十名)

陸軍大学士官学校教授 吉田 清
 東京大学理学部助手 石井 隆
 東京大学理学部助手 木村 隆
 東京大学理学部助手 渡辺 光
 内務省国土局技師 西水 茂
 東京大学理学部助手 多田 文男
 東京大学理学部助手 辻村 太郎
 東京大学理学部助手 尾井 重次
 東京大学理学部助手 又野 興志
 陸軍大学理学部助手 村松 隆
 文部省国史館長 渡辺 光
 東京大学理学部助手 吉田 清

図 6

上掲の「第一次研究会」における参集者名簿。(資料 1 - 2、68-69 頁)

部		部		部		部		部		部		部		部		部		部	
上	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部
研究員																			
研究員																			

図 7

前ページの研究会で配付された「兵要地理研究課題決定要領」。(資料 1 - 3、69-70 頁)

部	部	部		部		部		部		部		部		部		部	
		部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	
研究員																	
研究員																	

図 8

(上掲の左に続く部分)



図 10



図 9-2



図 9-1

大本営陸軍部(参謀本部)による「情勢ノ変転ニ伴フ作戰用地図処理要領」の起案部分と、陸地測量部所蔵地図の処理に係る部分および地図の原図・印刷図等についての、対象地域別の処理説明。ここに見るように、旧領土と外邦地域についての「初刷」は、飛騨高山で秘匿とされた。地図の原図・原版・印刷図は、その対象地域に応じて、現況の儘または焼却処分。

(資料 2-2、73-74 頁)

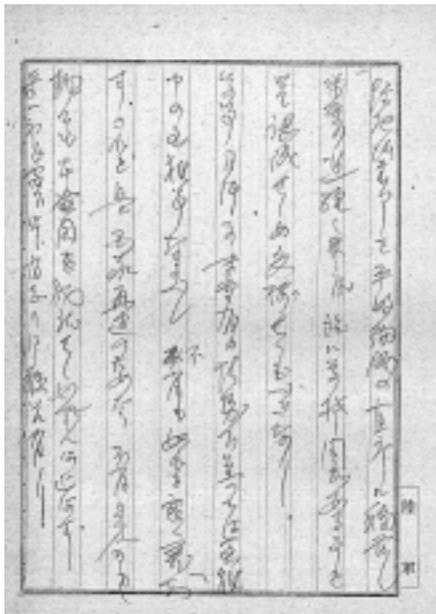


図 11-2

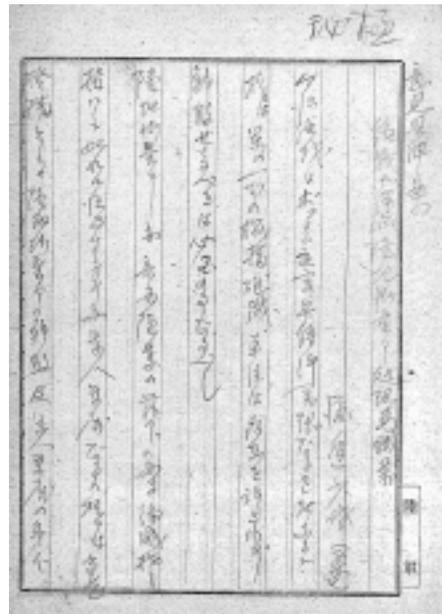


図 11-1

渡邊少佐による「終戦ニ伴フ陸地測量部処理要綱案」意見具申の冒頭部分と、「陸地測量部を平時編制の省庁に移管し...」の部分(資料 3-1 より抜粋)。全文の書き起こしは 76-77 頁に掲載。